

# Lightfair International 2005

New York, USA

2005. 04. 12-14

森秀人 + 奥中顕子 + 板倉厚 + 永田恵美子

早春に開催された今年のライトフェアは再びニューヨークへと戻ってきた。ちょうどその頃トロントの現場へ訪れていた森と永田、シンガポールから旅たった板倉、そして東京からは奥中が、2005年ライトフェアをレポートするため、現地に集合した。



Javits Convention Center

## Lightfair 2005 - The feature. Illuminated-

今年のライトフェアはニューヨークへと戻り、恒例の Javits Convention Center で早春、開催された。年々その規模が小さくなっていると囁かれるとはいえ、まだまだこのフェアを機に世界各地から照明関係者がアメリカに集まる。今年の会場には一新された Lightfair ロゴのバナーが堂々と掲げられ、リビングの一角のようなソファのある空間が設けられ（ほんの一部ですが）、会場の雰囲気作りに気を配る動きが徐々に始まったようだった。

今年のプログラムの中には私たちが参加した4月12日～14日の3日間に開かれたレドショーとセミナーの他に、昨年のラスベガス・ライトフェアから始動した「Daylighting Institute」と呼ばれる Daylighting にまつわる様々な講座を受けられるというものもある。「エコ」が注目される世の中、建築業界でも「Sustainable Design」に意識が向けられている。その中で Daylight は一つの大きな要素。時代を先駆ける建築に足並みそろえていくには、私たちも知識や役割の幅を広げていかなければならないのだろう。その他、「Lightfair Institute」と呼ばれる3～6時間の集中講座では照明初心者から上級者に向けたトピックが選べる。そのなかには、照度計算・シミュレーション専門のコンピュータソフトを使いこなすトレーニングのクラスなども提供されていた。

## Trade Show

3日間催されるトレードショーはライトフェアの目玉だ。しかし、今年の出展企業は1300社前後。アメリカ、ヨーロッパのメーカーが主であるが、年々これまで大々的に出展していたメジャーなメーカーが姿を現さない傾向になっているとも囁かれている。その一方で、アジアのメーカーの姿が増えていた。アメリカ主催のこの展示会ではこれまで、アジアから出展しているブースはわりと静かであった気がするが、2年ぶりに見た彼らのブースには人だかりができていたり、新作製品などに与えられるアワードを受賞していたり、と徐々に馴染んでいるようだった。



すでに清々しい初日の朝 - Javits Convention Center 内

### <ブースめぐり>

じっくり見ていれば頭が痛くなる程、(当たり前だが)ブースが続く。どこから見始めるかも悩みどころかも知れない。入り口付近に優雅にディスプレイされていた Philips では MasterColor の 10 周年記念という文字と共に新たな種類が紹介されていた。日本でもすでに紹介されていた 20W CDM-T ランプの他、これまでの PAR38 ハロゲンランプと入れ替えられる、安定器内蔵型 MasterColor PAR38 ランプも開発されているようで興味深いものの一つだった。奥の方に穏やかな光に包まれているニッポのブースはすぐに目に留まった。たくさんの方が訪れているのを見かけ、北米でもいよいよシームレスが浸透していくのが楽しみだ。相変わらず人だかりが途切れないのは Color Kinetics のブース。パワーアップしたバージョンの器具や屋外用を含むラインナップに富んだ器具を新たに紹介していた。

今回の展示で個人的に目に付いたものは、表面温度を抑えた埋め込みアップライトが Cooper Lighting、B-K Lighting の 2 社から紹介されていた。それは光量を保ちつつ表面温度を最大 60°C (B-K Lighting) まで下げることができるということだった。

### <デザイナーの目>

トレードショーにおいて目新しいものや最新の技術で開発された製品やシステムを知ることは、照明デザイナーにとっては Lightfair 参加の大きな意義であり期待ではあるが、やはり、日頃のプロジェクトの中で発生する出来事や普段気になる照明器具への質問・疑問を抱える生活感のある(?)照明デザイナーの目で各ブースをチェックしてしまう。今回、同行していたシンガポール事務所の板倉 団員もそんな一人だったに違いない。グローバル化した照明業界でも携わるプロジェクトは何も日本だけではなくなっている。文化や習慣から生じる感性の違いとは別の次元で、風土、気候、そうした環境の違いへの対応が鍵となる技術的な考慮と製品の必要性に気づいてきた。すでに外気温が 30°C を超える地域では果たして器具の環境温度への対応ができるのか…まだ続いている LED 照明の器具にも気を使う。温暖化で東京の夏の気温も上昇しつつある今、人ごとではない。…そして私たちはオーストラリア出身のメーカーブースへと足を運んだのだった。

### <おなじみの LED 合戦>

例年どおり、LED 照明があららこちらに見られた。これまでの「色強い」や「器具の小型化」から「パワー」が競争の中心になってきていたが、器具を通して映像を映し出すなど、グラフィック的ものとしての器具がいくつか紹介されていた気がする。エンターテインメント性のある光を仕掛ける器具として、あるいはそのものがエンターテインメント性のある器具として、今後はどのような展開があるのだろうか、期待したいと思う。

## LightNight 2005

ライトフェアが行われている約一週間、会場外では親交を深めるためのパーティーやイベントが幾つもある。IALD 他が後援する LightNight もその一つで、4 年前から開かれるようになった。LightNight では毎年ゲストスピーカーを招き、興味深い講演会をカジュアルに開き人気を集めている。今年のゲストスピーカーは安藤忠雄氏。過去のプロジェクト紹介しながらの体験談は楽しくもあり、終始和やかな雰囲気。建築家として私たち照明デザイナーに求めたいことなど時折交えながら話す安藤氏の、社会と自然と住空間を見る目はやはり素晴らしかった。

### あとがき

寒いだろうと思っていたニューヨークは、屋間はサンサンと輝く太陽の下、暖かな春だった。とは言え、東京に戻ってきた頃には桜の木には新緑が見え始めていた。満開の桜を目にすることなく過ぎた 2005 年春だった。

(永田恵美子)



バーの一角のようなブース



可愛いフィリップスのブース



Edison Price の新製品紹介を真剣に聞き入る面出団長



LightNight の会場となった Center for Architecture

# 第25回街歩き 皇居周辺 東京に残された巨大な闇

2005.03.25

小川 祐樹

月明かりが印象的な早春の夜、我々探偵団は「東京に残された闇」を探るため、皇居周辺を調査しました。約20名の団員が九段下駅に集合し、まず初めに向かった先は靖国神社。オレンジの光で照らし上げられた巨大な鳥居が、遥か西にわずかな赤みを残した空を背景に、堂々とそびえ立っていました。

靖国神社をでると、団員一行は稲葉団員を中心とする黄コースと、面出団長を中心とする青コースの二手に分かれて光の調査を行いました。黄コースは皇居の周りを左回り、青コースは皇居の周りを右回りに回るコースで、ちょうど反対側、丸の内方面に位置する和田倉噴水公園をゴールとしています。

私の回った青コースでは出発後、早速コースを逸れて花見で有名な千鳥ヶ淵へと向かいました。ここにはまだ桜の気配はなかったものの、上向きの照明が開花に備えて既に設置されていた。

コースに戻り九段下交差点へ向かって進んでいくと、昭和館が見えてきました。金属的な建築表面に施されたライティングは、程よい暗さを確保していて、皇居周辺の暗さへの配慮が感じられました。

また、昭和館とは対照的に皇居へ向かって圧倒的な光を放っていたのが、平川門の正面に位置する新聞社でした。新聞社の窓から放たれる光は白川門や辺りの道路を煌煌と照らし、ここまでの暗さとの対比もあってか非常に明るく感じました。しかし、ここで改めて皇居の方を見ると面白いことに気がきました。それは実際に明るくなっているのは、平川門の白い漆喰壁の部分や石垣の部分だけだということでした。その周辺の木々や水面は強い光を受けつつもなお闇であり、ここに東京に残る闇を解明する糸口を見つけた気がしました。皇居周辺の木々や水面は周囲の光を吸収する存在、いわば都市の光に対するブラックホールとして働いているといえるのではないのでしょうか。

一行は更に進み、大手門の前までやってくると、ここにも光と闇の面白い空間を発見しました。この場所で大手門を背にして丸の内方面

東京の夜景を上空から見ると、張り巡らされた大量の光のネットワークの中に、ぽっかりと巨大な闇が沈んでいます。皇居。今回の街歩きでは、「東京に残された巨大な闇」を調査すべく、皇居の周りを二手に分かれて歩きました。



大手門前 闇を背景に門灯がまぶしく光る



大手門前 皇居の闇のすぐ隣りは蛍光灯の白い光があふれる



昭和館 暗さへの配慮が素敵

を見ると、極めて都会的な夜景が広がっているのに対し、真後ろを向くと、まるで都会とは結びつかないような闇の中の大手門が目に入ります。全く同じ視点から見ることのできる光と闇の相反する光景は、都市の中の皇居を象徴的に表しているようでした。

最後の見せ場はゴールの和田倉噴水公園です。ここでは噴水に当てられた照明がとても美しく印象的でした。ここにある光源は全て水を照らすためにあるようで、水が光の柱や壁となってあたりを夢幻的に照らしていました。

恒例の懇親会では黄コースの団員とも合流し、おいしいベトナム料理を食べながら、互いのコースで撮った写真の紹介や、他愛もない話に花を咲かせました。初春の夜風にいつの間にか冷えきっていた体は、にぎやかな雰囲気とともに暖まり、楽しい夜を過ごすことができました。

(小川 祐樹)

# 28<sup>th</sup> Salon: Roundtable Discussion

## April 5, 2005

City Walking Tour, Fukuoka and Sapporo City Lighting Survey Reports, Alaska Aurora Borealis Report, plus more...

A large crowd of club members, from students to lighting professionals, gathered this evening to listen to and contribute to reports from the city walking tour team and their trek around the Emperor's Palace, reports on city lighting surveys in Sapporo and Fukuoka, exciting photographs and stories from a trip to see Alaskan Northern Lights, and a colorful display from lighting manufacture, Maxray.

### ■ Emperor's Palace Walking Tour

The first report came from the city walking tour team and their 5km trek on March 25 around the Emperor's Palace in the middle of Tokyo. The members gathered for the tour were further broken into two teams and the route was surveyed in two parts. Blue team members, Ken Okamoto and Yuki Ogawa, both presented digital pictures for the audience to see for themselves the contrast in lightness and darkness along the perimeter of the palace grounds from Yasukuni Shrine to Tokyo Station via Takebashi Bridge. Yellow team members, Aki Hayakawa and Rachel Nakayama, contributed their impressions of the tour on the opposite side of the palace with pictures including the moonlit moat and illumination of the Japan Budokan, Diet Building, and Tokyo Tower.



The office lights of Kasumigaseki in the back ground contrast with the shadows of the palace grounds and moat.

### ■ Alaskan Aurora Borealis

Club members Natsuko Ueda and Teruhiko Kubota stole the show with breathtaking slides of the Alaskan Northern Lights. The whispery green lights danced across the projection screen and into the hearts of the gathered club members as they relayed their accounts of waiting in the cold and dark of the night to glimpse nature's spectacle.

### ■ City Lighting Survey

In December of last year, club member Akiko Okunaka ventured to Sapporo in Northern Japan to survey the city lighting layout and Christmas illumination event. Pictures taken from the Television Tower overlooking the city showed the grid formation of the city streets, rare in Japan. The snow-covered rooftops reflecting light from the evening sky, also bathed the city in a beautiful blue-ish tint. The Christmas illumination filled downtown Odori Park with

a festive spirit.

Next, Aki Hayakawa reported on her travels to the city of Fukuoka at the opposite end of Japan. Hayakawa concentrated her survey in three areas within the city, the riverside, underground shopping area, and the nightly row of street vendors. The pictures presented different lighting aspects of these various places, from low-tech booth lighting to the refined shadows and light of the underground shopping area.



Members check out the Maxray's new LED products.



Playful new objects from Maxray Mood light series.

### ■ Maxray Mood Light

Lighting manufacture, Maxray, introduced to the club a new lineup of lighting products, Mood Light Objects. These playful LED based products wowed the crowd as they showcased their rainbow of colors across the room. Objects included, a wine chiller, bowl, and candles, great for any party setting!

(Rachel Nakayama)

# 照明探偵団 デンマーク支部メンバー 東京の夜を歩く

2005. 4. 6

田沼 彩子

今回東京へやって来たのは、コペンハーゲンにあるデンマーク王立芸術学院で建築を教えたり、研究している5人。中には世界照明探偵団・デンマーク支部で活動している人もいます。東京国際フォーラムや満開の桜を愛でながらの上野街歩きなど、駆け足で東京を歩きました。

## ■日本のスポーツ施設の照明視察に

今回やって来たのは、デンマーク王立芸術学院 芸術学院建築スクール(The Royal Danish Academy of Fine Arts School of Architecture)の5名。ドームを中心に日本のスポーツ施設の照明について、視察するのが今回の彼らのミッションだったのですが、東京ばかりでなく、京都、大阪、広島・・・そして札幌まで!と約10日間の日程で日本を縦断しながら建築を見る、という強攻スケジュール。その中の半日を東京での照明探偵団の時間に充ててくれました。



満開の桜並木を背景に記念写真

## ■世界照明探偵団・デンマーク支部

来日した一人 Nanet Mathiasen が世界照明探偵団・デンマーク支部のメンバーです。いまや活動の舞台を世界に広げている照明探偵団ですが、6都市にある支部のひとつがデンマーク。建築家のNanetもこれまでにストックホルムやハンブルグで行われた Transnational Tanteidan Forum にも参加していて、すっかり馴染みのメンバーの一人。白いシャツがよく似合う、爽やかで知的な女性です。デンマーク支部は建築家や照明デザイナーの女性ばかりのメンバーで構成されていますが、HP も立ち上げるなど、活発に活動しています。 <http://www.lightingdetectives.dk/>

## ■残念無念、国際フォーラム

まず一行は東京国際フォーラムへ。海外からの来客があった時に私たちがかなりの頻度でお連れするのがこの場所。なぜなら、公共の建物でこれだけ照明デザインに時間とお金を費やし、それが維持されている場所はなかなか無いので。しかしこの日、これまで何度と無く訪れた気持ちいいガラスホール・・・のはずが一変した景色を私たちは目の当たりにすることになりました。なんと見たことも無いポール灯がガラスホールに多数出現。ゆっくり佇んで昼から夜への心地よい明るさの移ろいを感じられた場所が、何とにもぎやかな場所になってしまいました。これには面出団長も“残念無念”、の一言。詳細は面出の探偵ノート Vol.40 をご参照下さい。

## ■街歩き in 上野

有楽町を後に、上野へ向かいます。折しも山手線は仕事帰りのサラリーマンでごった返すラッシュ時間。満員電車の経験などももちろん皆無のデンマークからの客人たちにとって、これはかなり衝撃的な体験だったようです。上野駅を出て、目指すは上野公園。幸運なことに彼らが訪れたこの日、東京の桜が満開に。咲き誇る桜の下、春の宵の上野公園を歩く、という日本人でもなかなか経験できない街歩きを一緒にしました。1年の内、この1週間しか桜の花は咲かない。その儚さが日本人はみんな大好きで、時間をかけて会社ごとに場所を取り、赤い提灯をたくさん灯して宴会をする、ということを彼らに説明してはみたものの、その真意が伝わったかどうかはわかりません。

上野から江戸の風情を残す谷中を通って根津へ。最後はがらり戸にのれん、障子に置のある串揚げ屋さんで乾杯。あたたかな白熱灯の下、東京ベースに緊張気味だった彼らの表情が少し緩んだように見えました。

(田沼 彩子)



桜並木と屋台の並ぶストリートは日本ならではの景色



提灯とブルーシートはやはり欠かせない



熱い照明談義が交わされる

【照明探偵団の活動は以下の 21 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社  
岩崎電気株式会社  
カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
松下電工株式会社  
株式会社ウシオスペック  
ヤマギワ株式会社  
山田照明株式会社  
マックスレイ株式会社  
ニッポ電機株式会社  
株式会社エルコ・トートー  
株式会社ウシオライティング  
日本フィリップス株式会社  
トキ・コーポレーション株式会社  
東芝ライテック株式会社  
大光電機株式会社  
MARUWA 株式会社  
小泉産業株式会社  
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社  
湘南工作販売株式会社  
小糸工業株式会社  
株式会社遠藤照明

